

## 第6学年 図画工作科学習指導案

第6学年 24名  
指導者 立田 香江子  
授業場 6年教室

### 1 題材名 龍を見る〈B鑑賞(1)A鑑賞〉

#### 2 題材設定の理由

本題材は、龍の作品を見て、文化的・社会的な背景を考えたり知ったりしながら、自他の見方や感じ方を深めることをねらいとしている。それぞれの作品に描かれている龍の表情や体の描かれ方、絵がもつ勢いや力強さ、全体の雰囲気などに着目し、それらの造形的特徴から、作品のよさや美しさを感じ取ったり、分析的に見て認識を広げたりしながら考える。それとともに、作者の意図やその時代の文化的・社会的な背景からくる人々の思いが、造形的な特徴に表れていることに気づき、写真とは違うこれらの作品の表現の奥深さを味わえることが期待できる。また、その作品の見方や感じ方は、児童の生活経験によっても様々であり、同じ作品を見ても多様な感想が出てくるだろう。それらを話したり聞いたりする中で、自分の気が付かなかった龍の様々な特徴に着目でき、見方や感じ方をさらに広げていく活動が中心となる題材である。

本学級の児童は、「わたしの好きな風景・場所」という題材で、自分のお気に入りの風景や場所を絵に表す活動をしている。中には、何人かが同じ場所を描いている作品もあったが、構図や色が同じ作品は1つもなかった。作品を見ると、特に気に入っている対象物は、画用紙の中心に大きく描いたり、教室の床の色など、実際よりも明るくカラフルに塗ったりするなど、児童の思いが形や色に表れていた。その後、「描きたい思いが表れているところ」に着目しながら、友達の作品を鑑賞した感想を見ると、児童も構図や色などの特徴から、友達のその風景や場所への思いを感じ取っていた。絵を描いた人にとってその対象物がどう見えているのか、心に思い浮かべる情景や姿が、実際の形や色とは違う表現につながっていることを、この活動を通して感じ取ることができている。しかし、感想を書く際に、ほとんどの児童は、様々な言葉で表現することができているが、一方で、結びが「すごい」といった単調な表現になっている感想も多く見られた。龍の鑑賞を通して、自分の感じたことを具体化できるように、言語活動を工夫する必要性を感じる。

そこで、鑑賞に適した言葉を一覧にしたものを2つ用意する。1つは、校内で統一して作られたもの(A)。もう1つは、「わたしの好きな風景・場所」の鑑賞の活動で、実際に児童が感想で書いた言葉の一覧(B)である。A、Bとも「大きい・明るい・くすんだ・やわらかい」といった作品を見た感じを言葉にしたものが列挙してあるが、それに加えてBには、「工夫している・描き分けている・考えている・まとまっている」など、語尾の部分に関するものを載せている。これは、「すごい」のような単調な表現をなるべく減らす効果をねらっている。また、描く視点や向きにも着目した言葉を使用することで、自分の感じたことを、より具体化できるように支援したい。龍の図像については、表現の細部までわかるように大きく拡大したり、できる限り正確な色の作品を表示したりするなど提示の仕方を工夫し、児童が近くで見られる場を用意するようにしたい。導入にあたっては、龍の表情や体の描かれ方、絵がもつ勢いや力強さ、全体の雰囲気などに関心を向け、自分の知っている龍の知識やイメージとの違いなどを話題にすることで、作品に入りやすくする。また、社会科の歴史学習に出てくる文化財にも、身近な友達の作品にも、それぞれに人々の思いが込められていることに気づくことで、作品を大切にしようとする気持ちを育めるようにしたい。

### 3 題材の目標

- (1) 作品のよさや表し方の違いを見つけることから、動きやバランスなどの造形的な特徴を理解する。 (知識及び技能)
- (2) 作品の造形的な特徴から、その作品が作られた思いや意味を考える。 (思考力・表現力・判断力等)
- (3) 作品から気づいたことや話し合っただけ感じたことから作品のよさを主体的に味わおうとする。 (学びに向かう力・人間性等)

### 4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
作品のよさや表し方の違いを見つけることから、動きやバランスなどの造形的な特徴を理解している。	作品の造形的な特徴から、その作品が作られた思いや意味を考えている。	作品から気づいたことや話し合っただけ感じたことから、作品のよさを主体的に味わおうとしている。

### 5 指導と評価の計画 (全3時間 本時2/3)

時間	ねらい・学習活動	評価の観点	評価方法等
1	・龍の美術作品を見て、感じたことや考えたことをワークシートに書く。	態 ○ 思 ◎	・龍の美術作品に興味・関心をもって見ているか、自分の感じたこと考えたことを、どのように表現しようとしているのか、鑑賞の様子を観察したりワークシートを見たりして把握する。 (観察・ワークシート)
2	・龍の美術作品を見て、感じたことや考えたことを、話し合う。	態 ○ 技 ◎ 思 ○	・進んで、作品から感じたことを話しているか、話し合いの様子や発言内容から把握する。 ・話し合う中で、龍の造形的な特徴や作品にこめられた意味に気づいているかを、発言内容やワークシートから、把握する。(観察・ワークシート)
3	・それぞれの龍の美術作品の概要について調べる。	態 ◎	・美術作品の文化的背景に興味関心をもって、進んで調べようとしているか、様子を観察して把握する。

○題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し、指導に生かす。

◎題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を把握し、記録に残す。

## 6 本時

### (1) 目標

龍の美術作品を鑑賞して感じたことを話し合い、龍の造形的な特徴やそこにこめられた作品の意味に気づくことができる。

### (2) 展開

学 習 活 動	指導上の留意点	学習活動における 具体の評価規準	評価 方法
1 本時の学習活動やめあてを確認する。	○前時までの活動を振り返り、本時のめあてを確認し、学習の見通しをもたせる。		
龍の美術作品を見て感じたことや、作品にこめられた思いについて話し合おう。			
2 前時に鑑賞した龍の美術作品を見て、感じたことを発表する。	○なるべく多くの作品について感想が出るように、発言を促す。 ○造形的な特徴について言及した発言を取り上げることで、着目できるようにする。	○自分の感じたこと発言をすすんで発言している。 【態度】	発言
3 作品にこめられた思いや意味について話し合う。	○すべての作品に共通する意味を考えさせるとともに、それぞれの作品のどの造形的な特徴から思いが感じられるかを考えさせる。	○作品の造形的な特徴に気づき【技能】、作品に込められた思いと関連付けて考えている。【思考】	ワークシート 発言
4 振り返りカードに記入し、本時の学習を振り返る。	○本時の活動を振り返り、次時では、作品が作られた背景について調べていくことを伝える。		

### (3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の造形的な特徴に気づいている。【技能】</li> <li>・作品の造形的な特徴と作品にこめられた思いや意味を関連付けて考えている。【思考】</li> </ul>
「おおむね満足できる」状況を実現させるための具体的な指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の造形的な特徴に着目できるよう、話し合いで出された発言を取り上げたり、発言のたびに作品で示したりして、気づきやすいように配慮する。</li> </ul>

## 第6学年 校内研究授業記録

第6学年 24名


指導者 立田 香江子



1 題材名 1 題材名 龍を見る〈B鑑賞(1)ア鑑賞〉

### 2 本時の目標


龍の美術作品を鑑賞して感じたことを話し合い、龍の造形的な特徴やそこにこめられた作品の意味に気づくことができる。

### 3 展開 (本字2/3)

教師のはたらきかけ	児童の反応
<p>○(龍を見る)です。おさらいをしていきたいと思います。</p> <p>○龍ってどんな生きものでしたか。 みんなで考えをまとめましょう。</p>  <p>○(意見をもとに、めあてを出す。)</p> <p>○鑑賞のポイントって何でしたか。</p> <p>○見てみましょう。あれは何ですか。</p> <p>○一つの作品につき何個ぐらい意見が出るかな。</p> <p>○「①ドラゴンブリッジ」について発表しましょう。</p> <p>○見る視点や設置されている場所という鑑賞のポイントがさらに出てきたね。</p>	<p>○ワークシートを見る。</p> <p>「自由な生きものです。」</p> <p>「伝説の生きものです。」</p> <p>「いろんな国で扱いがちがいます。」</p> <p>「あまり悪い生きものではない。」</p> <p>「龍とドラゴンではちがいがあある。」</p> <p>「中国で有名。」</p> <p>「形や色」</p> <p>「表し方のちがい」</p> <p>「作品のよさ」</p> <p>「ドラゴンブリッジ」</p> <p>「4個ぐらい」</p> <p>「迫力のある龍」</p> <p>「羽のふくろが大きい」</p> <p>「じっぽに針があり、翼もあり、口を大きく開けているので悪い龍だと思う。けど、町の中心にあるから守り神かもしれない。」</p> <p>「口を大きく開けている。」</p>

教師のはたらきかけ	児童の反応
<p>○「②高松塚古墳壁画青龍」について発表しましょう。</p>  <p>○形からのイメージはどうですか。</p> <p>○「ことばであらわそう」の中でうねりってある？足しておいてもいいね。</p> <p>○「③十二神将立像辰神」について発表しましょう。</p>  <p>○今日お休みの〇〇くんの意見も紹介しますね。 (ワークシートから。)</p> <p>○「④雲龍図(狩野探幽)」について発表しましょう。</p> <p>○教室の幅が半径6mですね。</p>	<p>「目が光っていて獲物を狙っているよう。」</p> <p>「名前が青龍だが、体が緑。」</p> <p>「色を使い分けていて本物みたい。」</p> <p>「体が途切れていてすごく大きい。」</p> <p>「オレンジ色や黄色を使っているすごく安心感がある。」</p> <p>「〇〇さんが調べていたように、龍が蛇みたいに見える。」</p> <p>「青や緑で守り神のよう。」</p> <p>「体のうねりが強そう。」</p> <p>「体全体が金で覆われているから守り神みたい。」</p> <p>「顔全体の雰囲気、えんま大王みたい。神様みたいで怖いけど、守られてそう。」</p> <p>「ゴツゴツしている様子ではなく大人しそうと思った。」</p> <p>「顔と刀の抜く方向から、上から見下ろしているみたい。」</p> <p>「男の人の頭に龍がいるのは、干支を守っていると思う。」</p> <p>「金で、縁起がいいように見える。」</p> <p>「厚く角張っている鎧が強そう。」</p> <p>「12mある。」</p> <p>「ゴツゴツしている。」</p> <p>「映画に出てきそう。迫力があり今にも出てきそう。」</p> <p>「雲のような周りに龍が出てくるのが、水の神様のよう。」</p>

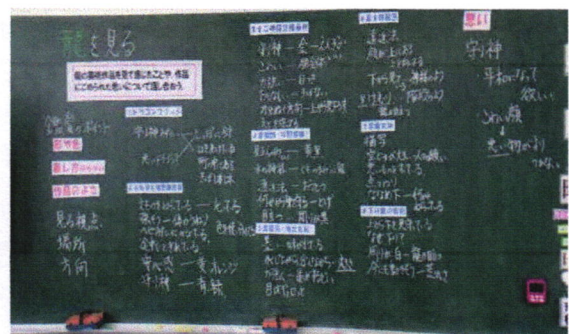
教師のはたらきかけ	児童の反応
<p>○遠近法？みんな見てみて。</p> <p>○「⑤雲龍図（海北友松）」について発表しましょう。</p> <p>○これって4枚じゃないよね。8枚だったね。</p> <p>○そうだよね。「あ」「うん」の呼吸になっていましたね。</p> <p>○「⑥富士越龍図」について発表しましょう。</p>  <p>○「⑦雲龍支鉢」について発表しましょう。</p>	<p>「明るくて金色の雲の上で泳いでいるみたい。」</p> <p>「遠くから見たら遠近法みたい。」</p> <p>「凹凸がある。」</p> <p>「うろこに迫力がある。うろこにとげみたいなのがあるから、何かから守っているみたい。」</p> <p>「龍の周りが黒く塗られているから目立つ。」</p> <p>「墨だけで描いている。他の材料を使わないことで味が出ている。」</p> <p>「所々隠しながら、出しながら、大きさが伝わる。」</p> <p>「不思議にうまく感じる。」</p> <p>「目はギョロっとしている。」</p> <p>「あ。」「うん。」</p> <p>「遠近法を使うので見る人が山の方にいる。」</p> <p>「天に昇っていく様で北斎の最後の姿と思った。」</p> <p>「下から見てみると龍が神様のよう。」</p> <p>「下から煙が上がっている。階段のように見える。」</p> <p>「黒の煙の中で描くことで、龍が目立つ。」</p> <p>「鮮やかな色がとてもきれい。」</p> <p>「描写がきれい。」</p> <p>「宝珠が大きいのは、人々の願いが込められているからだと思う。」</p> <p>「青っぽい雲（悪い心）を吸っているような感じがする。」</p> <p>「龍のうろこが点々塗りのようにになっている。」</p> <p>「龍が斜め下を向いて、何かを狙っているような想像が膨らみました。」</p>

教師のはたらきかけ	児童の反応
<p>○「⑧下り龍の彫刻」について発表しましょう。</p>  <p>○8つの作品を見て、それぞれ作者にはどんな想いがあったと想いますか。</p> <p>○どんな思いでつくったと思う。なぜ怖い顔かな。</p> <p>○例えば悪いものって何だろう。</p> <p>○これっていつ頃作られていますか。最近？</p> <p>○その頃の江戸時代を調べてみたら、何でこれを作ったかの、背景が出てくるかもしれませんね。次の時間にはそれを調べていきましょうか。</p> <p>○振り返りカードを1～5段階で評価してください。</p>	<p>「目がギョロっとしている。」</p> <p>「下っている龍がすごいと思った。」</p> <p>「下り龍が上から下を見守っている。」</p> <p>「なぜ、下り龍と名付けたのか気になる。」</p> <p>「柱が白い石灰で作られていて、龍が目立っている。」</p> <p>「荒々しいポーズで、今にも動き出しそう。」</p> <p>「黄色に光る目がこちらを睨んでいるよう。」</p> <p>「ゴツゴツと長い体が天をあおぐよう。」</p> <p>「一つ一つの個性はあるけれど、守り神にしていると思います。」</p> <p>「龍はこわいイメージだから、守り神のようにして飾ったと思います。」</p> <p>「平和になってほしいと思った。」</p> <p>「怖い顔にすることで、悪いものが寄りつかない。」</p> <p>「風邪、病気、自然災害。」</p> <p>「1656年、江戸時代です。」</p> <p>「はい。」</p> <p>○振り返りカードに記入する。</p>

### 板書

#### 龍を見る

龍の美術作品を見て感じたことや、作品にこめられた思いについて話し合おう。	⑤	④	思い
	⑥	③	
鑑賞のポイント	⑧	①	
	⑦	②	



## 1 問題点

- (1) 作品のよさや表し方の違いを見つけ、動きやバランスなどの造形的な特徴を理解できるようにするにはどうすればよいか。
- (2) 作品の造形的な特徴から、その作品が作られた思いや意味を考えることができるようにするにはどうすればよいか。
- (3) 作品から気づいたことや話し合っただけで感じたことから作品のよさを主体的に味わおうとする態度を引き出すためにはどうすればよいか。

## 2 解決の一方策

### 〈問題点（1）について〉

- (1) 八種類ある竜の図画を、大きく拡大したり、できる限り正確な色の作品を表示したりと、提示の仕方を工夫することで、児童が作品の表現の細部までをよく見て、じっくりと鑑賞することができた。
- (2) 鑑賞の活動場所を広い音楽室に設定し、美術館のように図画を配置することで、児童が思い思いの場所から、また寝転んだり座ったりといった思い思いの視点から鑑賞することで、自由度の高い鑑賞活動ができた。
- (3) 鑑賞する前から、時代背景などの絵の情報を言わない「そのまんま効果」を大切にすることで、児童一人ひとりの見方や感じ方を深めることができた。
- (4) 鑑賞シートを活用し、感じたことや思ったことを言葉にすることにより、対象の美しさや造形的な要素が明確になったり、対象を見る視点や対象から感じ取ったことが整理できた。

### 〈問題点（2）について〉

- (1) 「ことばであらわそう」という鑑賞に適した言葉の一覧表を児童に配っていた。表面の校内で統一したものに加えて、裏面は実際に6年生が感想で書いた言葉載せていた。さらに言葉を付け加えて活用する児童もおり、児童の鑑賞の言葉を引き出すことにつながった。
- (2) 初めに鑑賞のポイントをまとめて板書していた。また、実際に児童の意見から鑑賞のポイントを付け加えていくことで、イメージが共有でき、伝え合いが深まっていった。
- (3) 授業者は伝え合う際の文末表現に着目し、「すごい。」といった単調な表現を減らすべく普段の授業から指導を続けていた。言葉の表現が育っていることで、感じたことをより具体的に表現できる児童が多く、活発な意見交換につながった。
- (4) 次時は、作品の時代背景を調べる活動につなげることを計画している。作品を作った作者の「思い」につなげていくことで、より鑑賞が深まることをねらっている。



### 〈問題点（3）について〉

- (1) 小学校段階では、楽しんで鑑賞することが大切である。「美術館」という場の設定の工夫から、子どもたちなりの見方で鑑賞を楽しむことができていた。
- (2) 授業者が児童の意見を把握しており、欠席の児童の意見を共有したり、どの意見も一つ一つ丁寧に取り上げたりと、感じたことを安心して言える雰囲気作りができていた。児童の発言を中心に授業が進められており、学び合いを通して関心が高まった。
- (3) 授業者が「どこからそう考えたの。」といったさらに深まる発問をしたり、児童が意見を言った後に鑑賞のポイントとつなげたりすることにより、共有の時間が充実していった。

### 3 今後の課題

- (1) 作品の感想で、授業時間のほとんどを費やしてしまった。前時を本時につなげるための工夫があるとよい。例えば、付箋や大きいホワイトボードを活用してみんなでどんどん感想を書いていき、そこから共通した思いを探すという活動がある。そうすることで、まとめや振り返りの時間がとれる。
- (2) 「ことばであらわそう」の表について、言葉の分類をして、並べ方を考え直してみるとよい。子どもたちが言葉を見つけた時に書くスペースがあってもよい。また、オノマトペの表現は児童が理解しやすいため増やしてみるとよい。
- (3) 普段の授業から身近に鑑賞を取り入れるためには、アクションカードを活用するとよい。同じところ見つけ、仲間集め、時代の古い順、高そうなものからなど、子どもたちの見方で鑑賞に親しむことが大切である。